

令和3年度 北海道本別高等学校 2学年 総合的な探究の時間 「とち創生学」 研究論文

I 写真で見る 1年間の活動	ページ … p 1
II 研究論文	
テーマ1「銀河通り商店街の活気UPプロジェクト」	… p 5
テーマ2「空き家再生プロジェクト①」	… p 9
テーマ3「大豆を使った商品で町の魅力Upプロジェクト」	… p 15
テーマ4「アニメの聖地本別町プロジェクト」	… p 18
テーマ5「本別公園に中高生を呼び込むプロジェクト」	… p 21
テーマ6「空き家再生プロジェクト②」	… p 27
テーマ7「生涯幸せプロジェクト」	… p 32
テーマ8「本アニプロジェクト～本別をアニメで有名に～」	… p 37
テーマ9「高校生の放課後を救おうプロジェクト」	… p 39
(探究コーチ一覧)	… p 43

北海道本別高等学校

発刊にあたって

令和2年度から、総合的な探究の時間を「とかち創生学」と名付け、本別町における地域理解、地域課題について探究活動を行ってきました。

昨年度の2年生においては、大豆を使ったカレーづくりやスイーツづくりなどが行われ、町給食センターの協力をいただきながら、町内の小中学校で試食していただきました。このカレーづくりは、さらに、発展を遂げ、JA本別町がレトルト・カレー「カレーでナイト」の商品化、ふるさと納税返礼品となりました。

本別高校の探究活動の特色は、役場・JA・商工会などの職員の方々が、週1回、探究コーチとして来校し、地域の課題の議論の助言、関係機関との連絡調整など多様な支援をいただいていることです。

探究活動は人材育成にも寄与しており、令和4年度本別町役場に内定している生徒との面談において、探究活動で町役場職員と議論する中で、将来、この職員のように地域に貢献したいと思うようになったと話をしてくれました。また、探究活動をアピールして大学に合格するなど、探究活動は生徒の進路実現にもつながっています。地域と連携した「とかち創生学」という探究活動が地域活性化や人材育成など、小さな芽となり育ちつつあることを実感しているところです。

「とかち創生学」は、地域創生はもとより社会人基礎力を育成するための基礎と位置づけ、探究的な活動を通して、自己を認識し振り返りながら自らキャリアを切り拓いていく上での必要な学びです。この学びは、高校だけで完結できるものではなく、コミュニティ・スクールなど地域からの支援や協働によってなし得るものであり、教育における地域との連携や地域の教育資源の重要性を改めて実感しているところです。

さて、今年度の2年生の探究活動は、9班での探究活動となりました。11月課題研究発表、12月模擬議会や町主催の協議会、1月日立製作所及び北大ラボ主催の発表会において、探究活動の成果を披露しました。

今年度の活動の成果を形として残し、次の学年につなげるために、冬季休業期間中に生徒一人一人が探究活動の論文執筆に挑戦しました。生徒の記述からは、探究活動における取組の困難さ、終了後の達成感、地域への感謝、これからのキャリアに向けてた決意など、探究活動の取り組み後の意識の変容が見られました。

是非、在校生はもとより保護者、地域など多くの方々に、この研究成果をご覧いただき、本別高校の生徒ひとり一人の変容を感じていただければ幸いです。

令和4年2月21日

北海道本別高等学校長 松田 素寛